

---

essais ころみ 2021年9月

---

2021年9月1日（水） 曇り

午前中は晴れの予報だったが、曇り。今日から週末にかけて季節の変わり目のお天気になるとか。昨夜は、“あっ、涼しい…”。暦の上ではまもなく中秋。ちなみに今年の十五夜は9月21日。

— 旧交あたためる —

出会って今年で15年になる方と昨日久しぶりにゆっくりお話をしました。いつも気にとめていただき、ありがたいことだといつも感謝しています。

ずいぶん以前、いつかお会いした時、そう感謝を口にすると、「あなたがまたあなたの世界で他の人たちによくしてあげればいいのですよ」と話された。心の中であらためてこのご縁に感謝したものです。

「恩送り」という言葉を知ったのはそれからかなり後のことでした。たぶんこのことを言われたのだと思います。「恩送り」、いい言葉です。

お互いにそう思える、そして実践できれば、世の中すてたものじゃないですね。

2021年9月3日（金） 雨

今日も朝から雨、昨日と同じような一日になりそう。気温は30℃を届かずじっとしていれば、暑さは感じない。季節の変わり目、秋雨前線は来週前半まで停滞するそう。はやく秋晴れがみたい。

— なんども、「知的装備」 —

今日のessaisでも話しましたが、ネットは〈悪さ〉もしやすくして、不正を指南する「悪いやつら」が後をたちません。それに乗るのも簡単にできてしまうため、深く考える間もなく、乗る人も少なくない。

何年も前にここに書きましたが、善悪の意識や判断がすごく希薄になってきている。転職の時に名簿や顧客データ持ち出す人が増えたのは15年前ぐらい前からではないかと思えます。

その後しばらくして、10年前ぐらいからは、国家資格をもつ専門家でも、よく見極めないと、相談する側の何の支援もならず、場合によっては、混乱させられて終り、というケースも聞くようになりました。

FBが一般に浸透し始めた頃に自称コンサルタントがネット上に溢れて、彼らの〈商法〉パターンにうっかりはまった人もいましたが、今では学習した人も多い。

だからもっと「悪いやつら」が〈裏社会化〉して、昨日の不正のニュースのようなことになっているのではないか。そう感じました。

目先の利益に惑わされない、安易に〈うまい話〉に乗らない、そういったセンスが本当に大事です。

センスはそう簡単に身に付きませんが、まずは知識を習得して、自分の頭で考える。知性に試練を与えれば、感性が磨かれますものね。

とにかく、つまらない世界に足をつっこまず、基本的は真つ当な世界で生きていく。そのためにも、やはり知的装備は欠かせない。

何度なくなく、最近同じことを言って、書いてきていますが、これからの社会を生きていく上で、「知的装備」が鍵になると心底考えています。

2021年9月7日（火） 晴→曇

今のところよく晴れている。雲もあるが、秋らしい雲。朝晩ほんとうに涼しくなった。昨日の日中よく晴れたが、陰にはいると風が気持ちよく、暑さをあまり感じなかった。よい季節になってきました。

－ 人に歴史あり、歴史に人あり －

9月に入り日経新聞最終ページの『私の履歴書』は「山本耀司」。初日にその名前をみて、まずは読んでみました。出だしからすぐに、“今日は読みだなあ…”。人に歴史あり、です。

8月に録画していたNHKBSのドキュメンタリーを先週末にみました。「ヒトラーの演説」に関するものと、九州大学が続けているプロジェクトで、沖縄の海底に沈んだ米軍駆逐艦の海底調査から浮かびあがる「特攻」の歴史の真実です。

後者の録画は前編だけを見て、後編は少し時間をおくことにしました。前編の終盤で、最後の証言者といわれる元軍人の老人が、独り言のように、「これから未来のある若い者が…」とつむぎ加減に語った姿が印象的でした。

歴史のある時点を天から見下ろし、どんだんを地上へ降りていくと、そこに人々の暮らしがある。喜怒哀楽にみちた、個々人の切磋琢磨する姿がある。歴史年表には現れない人それぞれの歴史。そんなことをあらためて想いました。歴史に人あり、です。

さて、山本耀司さんの「履歴書」は大学時代に入ったところ。この先どのような物語りが展開されるでしょうか。

人は現在のことは指し示せばよいが、過去のことは物語らねばならない(J・Gヘルダー)

2021年9月9日（木） 雨→曇→晴

早朝の雨はやみ、午後からは晴れの予報。今日は「重陽」、といって何かするわけではないが、和菓子を食べるのもいいのではないか。デパ地下はいま「栗」盛り。

－ 他者を見るように、自分がみえれば －

仕事をとおして、いろいろな方々と出会い、その方ならではの想いや未来への展望にふれるのは、本当に仕事冥利につきます。

話すうちにその方の奥行が読みとれ、本質や才覚の一端が見えてくる。それに応じてアドバイスをしたり、時にはこちらが鏡になって、自身では気にとめていない、その方ならではの面を伝える。

どんな時は、「なんでそんなことがわかるんですか?!」とビックリされたりもしますが、場数と少なからず学びを重ねた賜物でしょうか。

こういう風に仕事の場面ではこちらが人を読みとる側になるのですが、時々、相手がこちらを読みとり、初対面ながら、すごく親しみをもっていただくことがあります。その方々と今も交流が続いています。

つい直近にもそういう出会いがありました。過分なお言葉をいただいたこともあり、あらためて、いったい人にどう見えているのだろうと思ったしだいです。

7,8年前だったか、親しい友人に尋ねてみたことがあります。感覚的なことですから言語化するのが難しい。だから、「とにかく、独特な感じがあるねん」。

『知識はぬすまれる 感覚はぬすまれない』という言葉がありますが、人の感覚を自分がそのまま持つことはできない。いったいどんな風に見えて、読みとられているのか、興味がつきません。

2021年9月9日（木） 八尾市恩智の『茶吉庵』で、「好きを仕事にする読書会」見学

知人に誘われ見学させてもらったのは、「浮世似顔絵」師の村井さんが主宰する小さな勉強会。京大卒、大手監査法人に勤務経験のある方で、つい最近毎日新聞にも紹介されたそう。特定の本をテキストに、ワークも入れながら、ざっくばらんに話し合い、考える。和やかな進行は村井さんの持ち味のように、よい雰囲気での会でした。

その会場がまたいい。19代続くお屋敷を改修した「茶吉庵」。2年前にオープンしてすぐに「コロナ」で、まだ十分には活用できていないようですが、これから本稼働、来年にはいろいろなプロジェクトが進むそう。





2021年9月13日(月) 曇→晴

予報どおり昼頃から陽ざし。ただしそれも束の間、台風の影響もあり、またすっきりしない天気になりそう。来週は秋分、そういえば、彼岸花はもう咲いているのか。

－ それぞれの未完自業史 －

今日のessaisでも話しましたが、先週11日の「プロ講師になろう塾 approach2021」2回目、初日の課題に出した800字の「未完自業

提出義務はなく、でも読んでほしいと思う方はコピーを持参してくださいと声をかけたところ、2/3が持参。預かったそれぞれの「未完自業史」を昨日の午後に読みました。

これまで担当した他の創業塾、起業塾でも必ずこの800字文章は書いてもらいます。たくさんの方のものを読んできましたが、本当に、人生いろいろ、いつも感服するばかり。

今回もそうでした。読みながら、この文章を書いているご本人の様子が想像でき、心境や感情の動きなども何となく伝わってくる。自身に向けて、未来の自分に向けて書いているともいえる。

読んでそのつど、こちらの感じたことを元に次につながるコメントを書きました。ちょうど縦書のシンプルな葉書を買って置きしていたのです。次回ご本人にお渡します。

『人生という作品』という本の中で著者が、人の過去は決定されていない、未来しだいで過去の意味合いは変ると書いていました。

『時間は存在しない』の物理学者の著者は、「時間はまるごと現在にある。わたしの精神の中に、記憶として、予想として存在するのである!」と高らかに謳っていました。

わたしたちそれぞれの過去の意味合いはこれからまだまだ変わってしょうし、過去から現在、そして未来の物語がわたしたちそれぞれの身のまわりに漂って、自身を見守り、導く。そんな風に考えたりしますが、い

2021年9月17日(金) 曇→雨

台風が進路を極端に変えて、日本へ。近畿は明日午前中にかけて一番影響があるよう。なんとか午前11時現在で警報が出ていないことを願う。さてどうなるか…。

— 「観察」、その深遠なるもの —

“買って正解だったなあ…”、ページを追いながらそんな感想をもつ『心のしくみとはたらき図鑑』。ざっと全体を読み流したあと、まずは目次を抜き出し、一覧にしました。これでまずは全体像が一目できます。

第1章の概論のあと、第2章の「さまざまな精神疾患」にあげられたものは計48疾患。第3章の「心を癒すさまざまな治療法」は計32療法。第4章の「実生活の中の心理学」には47の項目。

第1章を読んだ後、第2章に入りかけて、先に目次の一覧をつくろうと考えてました。疾患の種類をすべて知っておく必要もなからうし、療法の方が自分の仕事に役立つ点もあるのではないかと思ったのです。

仕事に役立つ点では、たぶん4章が先。先日から読みはじめ、“勉強になるなあ…”と感じているところです。

まだ最初の部分ですが、4-2の「アイデンティティーの形成」、4-6「愛着(アタッチメント)の心理学」など、自分の知を照らし合わせながら、ほおー、へえー、なるほど…。

そのうち段々と、自分の頭の中に知識をしっかり入れたくなってきます。「LYK流思考の型」でいえば、「面型」の典型ですから、全体のつながりなどを知りたくなる。新しい学びのよい徴候です。

まだ途中ですが、今のところ感じているのは、心の問題もまた、「モンテニュー」の教えがいきそう。このページでも紹介している「自分をこまかく観察する能力」。「観察」、その深遠なるもの、です。

2021年9月22日(水) 晴→曇

今のところ晴れ、お昼前には曇って、午後からは雨の予報。昨夜は十五夜、月の出はあいにくの曇り空。前日は晴れて、十四夜の月を撮った。明日は秋分、今朝のessiaでも話したが、日曜に彼岸花をみた。『暑さ寒さも彼岸まで』。

『読書をする』ページにも紹介していますが、今年は久しぶりに「詩」にふれました。たまたま買った「図鑑」と合わせ、それなりにいろいろ読んでくると、凝縮したようなものの方がいいなあと感じたほどです。

そこに現れた実際の詩人。不思議なものです、つい最近仕事で会ったお一人が大阪在住の詩人。独自の活動が人づてに紹介されて、30年近くさまざまな場で詩を人々と紡いできた方。

普遍的なことをごくごく簡単な言葉で語りかけるような詩。子供から大人まで、だれでもが、内におさめている、求める愛、授ける愛を素直にごく自然に目の前に表す詩。

好き・嫌いのモノサシをあてるような、そんな詩ではない気がします。茶道の茶、書道の書を味わうように、ふっと、われにかえる「間」をもつための詩。〈詩道〉の詩？

思いがけず今年は「詩」が寄せてきました。何かしら、例年とは違うような出来事やモノごとにふれて、それが次へつながる流れ。そういうことが時々ありますね。やはり一年一年、違う一年です。

2021年9月24日（金）

ア・コテ・ドウ松林多鶴展へ <https://acotede.com/>

布のレースを陶器の人形などにするポーセレンレースドール作家、松林多鶴さんの作品展が小さなカフェでありました。阿倍野区播磨町2丁目のユニークな立地の「カフェ・ド・ブル」。小さいければ、縦長で、一方の壁面に作品を並べると、けっこう展示できるスペース。

作品はどれも繊細で、ネットでみるのとは違って、実物を前にすると、本当に惚れ惚れとします。メインのレースドールは手が出ないのですが、今回ハードの小さな作品があったので、事務所用に買いました。

来客の目にもつくキャビネットの上に置くと、一瞬であたりの雰囲気が変わりました。アートとは、そういうものですね。







2021年9月24日(金) 晴→曇

朝は秋晴れだったのに、お昼前から雲が多くなってきた。でも出かけるにはちょうどいい。案内をもらっていた今日から26日まで開催の作品展へ。ひととき、アートのおち。

— 「学び続けければ…」 —

先週のessaisで話した「弾かずに勝つ」のギタリスト。「学びこそが人生の喜び」と語り、「学び続けければ老いは怖くない」と続け、「虚無感ではなく達成感が残るよう〈進化形〉という言葉に大事にしたい」と結ん

日経の23日、24日に続けて、「ぶストコロナの雇用」の記事があり、23日の(上)では、「高度な抽象業務」への対応、24日の(下)では、「高度なスキル」を身につける必要性を説いていました。

スキルの高度化=upskilling。この言葉がこれから頻繁に使われそうです。そのために「学び直し」をすすめています。記事の中では学び直し=リスキリングとしています。

スキルは技能面や顕在化した能力を指すと思いますが、ともあれ、技能面も含め、抽象概念をしっかりと捉え、問題・課題を解決する道すじとその過程で具体的に何をすべきかを考え、実践できる力は、今も昔も、雇用されない働き方をする人には必須

具体的に何をすべきかの中に、場合によっては、〈何もしないようにすべき〉を含むのも当然あり得ますね。

何でも可でもやる、のでは、むしろ「虚無感」につながりそう。先のギタリストが語る「達成感」は、「学び」を自分の〈智恵〉にして得られる感覚ではないでしょうか。自分に誇れる自分を感じて、感じる達成感。

そうなったとき、「老いは怖くない」となるように思います。